

接種遅ればコロナ死者 2 万人増 21 年、東京大推計

6/17 共同通信



接種される新型コロナウイルスワクチン=2021年2月、熊本県八代市（KYODONEWS）

新型コロナウイルスワクチンの接種開始が3カ月遅れていたら、2021年の国内死者数が実際より2万人余り増えていたとの推計結果を、東京大新世代感染症センターの古瀬祐気教授らのチームがまとめた。また「ワクチンの安全性に関するデータは捏造されている」といった誤情報を信じた未接種者が、信じていない人と同じ割合で接種したとすると431人の死亡を防げたとの結果が出た。

古瀬氏は「次のパンデミックが発生した場合など、今後のワクチン接種戦略を考えるのに役立つ」と話している。約3万人を対象にした21年のアンケートによると、未接種者の36.6%が誤情報を信じていたといい、誤情報の影響を抑えることができれば、接種率を上げて死者を減らせる可能性も示した。

チームは、感染者数の他、ワクチンの接種率や有効性のデータを基に計算。21年12月にオミクロン株が出現するまでの国内の新型コロナによる死者は約1万5千人とし、同年2月に医療従事者らを皮切りに接種が始まったワクチンにより約3万人の死亡が回避されたと推計した。

都民のコロナ陽性率 37%、前回比 7 ポイント増 - 後遺症で生活に支障「あった」8 割

6/13(金) Cbnews

東京都が2月に実施した新型コロナウイルス感染症に関する都民アンケートによると、新型コロナ陽性と判定された経験が「ある」という回答が、2024年2月の前回比7.0ポイント増の37.0%となった。陽性経験者のうち感染してから2カ月以上、後遺症を疑う症状があった人の割合は4.0ポイント減の19.4%で、その約8割が日常生活に支障があったと回答している。【斯波祐介】

アンケートはインターネットを通じて行い、20-70代の都民1万2,164人から回答があった。陽性経験がある人の割合は、21年は1.0%にとどまっていたが、22年に5.0%、23年に19.6%、24年に30.0%と年々増加している。後遺症を疑う症状のあった874人に聞いた症状の内容（複数回答）は、「疲労感・倦怠感」が50.1%で最多。次いで「咳」38.2%、「味覚障害」25.6%、「嗅覚障害」24.7%、「発熱・微熱」20.9%などと続いた。

後遺症の症状が日常生活にどの程度支障があったかとの問いには、「非常にあった」が29.4%、「ややあった」が53.5%で、82.9%があったと回答した。内容については（複数

回答)、「仕事・学校を休んだことはないが、仕事・学業に支障が生じた」が最多で32.8%。次いで「症状が治るのか先が見えず、不安でふさがちになった」が31.2%、「後遺症のために仕事・学校を休んだ」が25.1%、「治療費などの出費が増えた」が20.1%などの順になっている。